

吉祥寺東町一丁目市有地利活用についての意見交換会

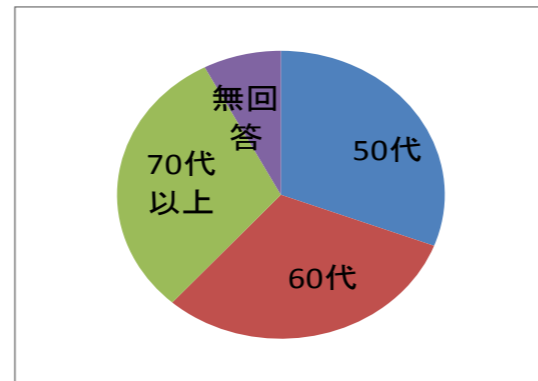
* 報告書 *

平成31年3月7日（木）の19時から、『吉祥寺東町一丁目市有地利活用についての意見交換会』を武蔵野公会堂にて開催しました。雨の中、14名の方にご参加いただき、グループディスカッション形式で意見交換をしていただきました。

～当日の流れ～

- 1 あいさつ
- 2 第一部 検討状況について
土地の概要やワークショップでの検討状況を市より説明
- 3 第二部 意見交換
グループディスカッションの後、全体での意見交換
- 4 閉会

参加者の年齢層



50代以上の方にご参加いただきました。

～みなさまからのご意見・ご提案～

「マギーズ東京」のような場

★相談相手が常駐し、がん、障害、難病のサポートをしてくれる場。

★お医者さんに話すような内容ではないことを聞いてもらえて、泣けるような場。

多世代交流の場

★高齢者と子育て世代が一緒に使える場。

★子ども食堂の食事を高齢者が作る、昔遊びを教えるなど、子どもと高齢者の交流ができればいい。

多機能・複合化を取り入れる

★一つの空間を時間によってうまく使い分ける。

★吉祥寺東コミセンと複合した建物として利用し、九浦の家は岡田さんちのような使い方をする。

動物と触れ合える場

★市内の公共施設で動物が入れるところがないので、動物が入れる場。

★アニマルセラピーを取り入れ、子どもから高齢者まで、地域の人の心身の健康に役立てる。

気軽に立ち寄れる場

★対象者の制限がなく、予約なしで利用できる施設。

★若い世代ややる気のある人に開かれた、自由でくつろいだ雰囲気のある場。

高齢者福祉の機能を付加する

★ショートステイなど、在宅の看護・介護を支える機能がほしい。

★高齢者が昼間に集まって懇談できるようなサロンがあるといい。

～全体での意見交換～

三鷹で子ども食堂を運営しています。高齢者が食事をつくる子ども食堂はすごくいいと思いますが、調理師免許が必要だったり、衛生上の観点からも、設備が整っていないと難しい。それから、困っている子にどうやって情報を届けるかという課題もある。チラシをまいても、なかなか人はきてくれません。運営するのは大変です。栄養のある食事は大切だけど、一番大切なのはみんなで笑いながら食べること。最近は子どもたちも緊張がほぐれ、話しかけてくれるようになりました。

チーム299という団体で、人と動物の共生についての活動をしています。動物と触れ合うことは、高齢者の認知機能、運動機能の改善や、子どもの心の成長に高い効果を発揮します。車いすのお年寄りが歩けるようになったという事例もあります。アニマルセラピーはきちんと訓練された動物ですので、病院や老人ホームでも受け入れるところが増えていきます。武蔵野市には動物が入れる公共施設がないので、まずは入れる場所をつくるのが第一歩だと思います。

「マギーズ東京に学ぶ、がんサポート拠点を武蔵野市に」という団体に所属しています。先日実施した「がんと向き合ったとき」という情報交換会のアンケートで、多数の方から武蔵野にマギーズが欲しいという声をいただきました。がんだけでなく、難病や障害の方も含め、不安に寄り添ってくれる場所、専門職のサポートが得られる場所があるといいと思います。

私も「がんと向き合ったとき」に参加しました。2人に1人ががんになるということが言われているなかで、がんであることを1人で抱え込むのではなく、がんとうまく付き合いながら生きていくことの支援が必要だと感じています。そのために、医療機関とは違う、「泣ける場所」があるといいと思います。

PTAをやっております。親が元気だと子どもも元気、子どもが元気だと親も元気、そんなことを実現する場があればと思います。若いうちに地域で顔見知りを作っておけば、歳をとってもネットワークが活きるので、若者のためのスペースを作ってほしいです。NPOや、やる気のある方のアイデアを反映し、例えば模様替えができちゃうような自由な場があって、地域も巻き込んで楽しみを生み、人と人をつなげていく、そんなアクティブな場になって欲しいです。

* 事務局コメント *

マギーズという意見が出ましたが、私たちも実際にマギーズを見学し、とてもいい施設だと感じました。マギーズには「海の見える場所」「運営費は寄付で賄う」などのルールがあり、マギーズそのものを実現することは難しいですが、いただいた意見をワークショップに伝えていきたいです。その他にも、子ども食堂を運営されている方の貴重なナマの声、アニマルセラピーという新たな視点、若者が盛り上げ地域とつながる場など、参考になるご意見をたくさんいただきありがとうございました。

